

らくだ図書館

常木らくだの小説投稿ブログ



● 常木らくだ ●

「運動会で転んで泣いちゃったけど最後まで走り切った」のが小学生ならかわいいけど、もし保護者リレーに参加したパパだったら、ものすごく格好悪いよね。

(↑ 昨日のブログを読み返して思ったこと)

というわけで、10 月になりました。

昨日&今日は、ガガガ、ルルル、MFJ、スニーカー等々、色んな賞の締切りでしたが、皆様は投稿されましたか？

ちなみに、自分は送りませんでした。

だって今書いた 4 か所って、すべて投稿経験はあるけど、一次通過できたことが一度もないんだもん……。

もう、バカバカっ！

こんな寂しいセリフ、言わせないでよっ！

聞かれてもいないのに、勝手に落選歴を披露して、一人で赤面するド M ワナビ。

あ、そうそう。

第 3 回ルルルカップの要項が出ましたね。

次回は 11 月ということで、GA といたばしに重なるので、またしても送れない予感……。

第 1 回からずっと送りたいのに、毎回タイミングが合わないルルルカップ……。

とまあそういうわけで、次はいたばし絵本に取り組んで、その後余力があれば GA に送る話をもう 1 本書こうと思います。

そんな感じで、このブログも 9 か月を迎えましたが、これからも毎日書き続けます。

更新時間が不定期で、内容もグダグダなんて、絶対に言わせないんだから……！

小説を書くことが楽しくて仕方ない。
小説を書かない人生なんてあり得ない。

自分は本気でそう思っています……が。

小説投稿なんて、やめときなよ？
デビューできる可能性なんてほとんどないのに、そんなことに時間を割くなんて絶対にもったいないよ？

残念ながら、世間からはそう言われてしまうのが現実です。

まあそれは、仕方のないことです。
仕方のないことだけど、でもあえて反論したい。

もったいない？
何が？

こっちにしてみれば、「小説を書く能力があるのに、時間や手間を惜しんで、作品を生み出さないこと」の方が、十倍くらいもったいないと思うわけです。

そう。
決して逃げているわけじゃなく、攻める姿勢で文章を書いている。

なのに世間からは、「趣味に逃げているだけの、何も頑張っていない人間」という目で見られてしまうのは、心底つらいことだと思います。

まあ、結果を出せていないから、そう言われちゃうのは仕方ないんですけどね。

なんか今日は愚痴っぽい内容になりましたが、いつかはきちんと結果を出して、自分が間違っていなかったことを世間に証明したいです。

待ってろよ、世間……！

何度か書いてますが自分は胃痛属性の人間で、頭痛属性や腹痛属性はないので、いきなり頭痛になると焦ってしまいます。

え、やば、何これ！？

うわ、どうしよう、薬とか飲んだ方がいいのかな！？

……………。

胃痛だったら「いつものキター」で済むんですけどね。

机の上には三種類の胃薬を常備、そのうち二種類は常に持ち歩き。

ちなみに一番のお気に入り、粉末状の太田胃散（分包）です。

そしてここで、胃のトリビアをご紹介します！

胃薬のCMによくイメージ図が出てきますが、人の胃は左上から右下へ向かって伸びています。

それゆえ食後すぐに横になる時は、右側を下にして横になると、胃に余計な負担をかけないそうです。（あくまで「横になる」場合の話で、眠ってしまうと胃が働かなくなります）

なるほど！

消化に重力を利用するんだね！

もちろん左を下にして寝ても、食べ物が逆流してくることはありませんが、一応お医者さんが言っていた話なので、真っ赤なウソではないと思います。

今日の教訓

「食後すぐに横になる者は右を向くべし」

というわけで、投稿とまったく関係ない話でしたが、今日は以上です。

これで胃痛とサヨウナラ……！

ジャンプ小説新人賞、一次通過だってばよ！

というわけで、7月に書いた33文字タイトルの作品が、無事に一次通過しておりました。

ジャンプ、早いなあ。

締切りから2か月で発表とか、このラノやえんため並みだ。

そして作品の内容ですが、こうしてタイトルを見ると流行に魂を売ったように見えますが、実際に流行に魂を売りました。

ぺっ、なんとでも言ってくれ……！

そうまでして、一次通過が欲しいんだ……！

けどまあ、「この作品がはじかれるなら、自分にはラノベは書けない」というくらい、最近の少年系ラノベにもものすごく寄せた内容なので、通ってくれてよかったです。

なんかね。

「最近の少年系ラノベって、主人公が美少女にモテまくるオチモノ系ばかりで、正直うんざりするよね」
と思うんですが、それならお前はそ手の作品が書けるのかと言われたら、実は書けないなあーと思った
わけです。

それなら、書けるようになってから文句を言おうじゃないか、……と。

そんな気持ちで書いた、『神俺（長いから省略）』。

まあ、まだ一次の段階で作品について語るのもアレなので、10月中旬の二次発表を楽しみに待とうと思います。

次の発表はソレで、その次は一迅社だ……！

9月に書いた話を読み返していたら、誤字脱字が大量に見つかり、自分で自分がイヤになるの巻。

表記揺れくらいならまだ許せるんですが、明らかな誤字を見つけると、なんかもう本当にイヤになりますよね。

すごくシリアスな場面で、「俺だぜ！」っていう台詞が、「俺だせ！」になってたり。

俺だせ……。

俺だせ……。

俺、だっせえ！？

なんか、もうね。

かな入力ならまだしも、ローマ字入力してるのに、どうして濁点が抜けるのか。

そんなこんなで、自分を殴りたい気分です。

そして話は変わりますが、10月になったので、SD用の原稿を印刷しました。

今年も複数通過を目指して頑張りますが、今回はタイトルがどれも普通なので、冷静な気分で表紙を印刷できました。

何しろ去年は、「激烈ワナビ戦」「貞潔サディスト」「好きです、ザビエル様っ！」という、タイトルが割と恥ずかしい作品を、3連コンボで送ったからなあ……。

まあそう思うなら、そんな恥ずかしいタイトル付けるなよ、って話ですけど。

とにかく、自分はSDの評価シートが好きなので、今年もはりきって参加しようと思います。
頑張るぞー！

いたばし絵本の課題が送られてきたレタパを見ていたら、すごいことを発見。

なんと……！

うちの住所の「阪急」という部分が、「東急」になっているじゃないか……！

まあ、無事に届いたからいいんですけど。

というわけで（？）、いたばし絵本に取り組んだ感想を。

去年の絵本はイメージ描写が中心でしたが、今年の絵本はサルデーニャ島の情景描写が中心で、しかも文章の内容がほぼすべて絵に描かれているので、ストーリーを大きく間違えることはなさそうです。

ただその分、細かい言葉選び（特に形容詞）で差がつきそうな、そんな感じ。

あとは、ひたすら厄介な最後の一文をどう訳すか、ですね。

なんか、翻訳をしているといつも思うんですが、

1. 原文の内容を理解する
2. それを意味の通じる日本語に訳す
3. その文章を「商品」として出版社に提供できる内容に磨きあげる

たぶん、本当に難しいのは「1⇒2」ではなく、「2⇒3」だと思うわけです。

ただ訳すだけなら、それこそ優秀な翻訳ソフトだってできますもんね。

そんなこんなで、本文はとりあえず一通り訳せたので、あとはこの文章をしばらく寝かせて、より質の高いものに磨きあげようと思います。

それにしても、講評も「東急」で送られてくるのかなあ……。

最近、急にアクセス数が増えた「らくだ図書館」。

何なんだ！？

どこかで紹介されたのか！？

理由はよくわかりませんが、こうして毎日文章を書くことができ、それを読んでもくださる方がいるというのは、本当にありがたいことだと思います。

最初は……というか今でも、色々と迷ってますけどね。

一冊でも本を出しているならともかく、しがない投稿者に過ぎない自分が、小説執筆について語り続けるのは、みっともないかもしれないなあ、って。

まあでも、みっともない姿をさらして、周囲から白い目で見られるのも、それほどイヤじゃないけどね！
(←ドM)

いや、それは冗談ですが。

でもほら、ね？

小説投稿ってちょっと特殊な趣味なので、周囲にあまり理解してもらえませんか。

周囲に仲間がいない上に、送る作品はことごとく一次落ち、評価シートもひどい酷評。

そんな状態だった投稿一年目時代に、投稿者さんのブログやツイッターを見ることで何度も励まされた経験があるので、自分もそうなれたらいいなあと。

そんなわけで、「自分はこんなことを考えながら小説書いてるよ！」というのを、こうして発信しようと思ったわけです。

こう言うと「ワナビの選民思想」と言われそうですが（前も言いましたね、これ）、小説を書けるというのは本当にすばらしい能力だと思うので、誰になんと言われようと書くべきですよ……！

そんな叫びを、今後もここから発信していこうと思います。

突然ですが、サンタクロースがいないと思った瞬間って、覚えてますか？

たいていの場合は、いつの間にか「サンタさんはいないんだ」と気付くものだと思いますが、自分はその瞬間をはっきりと覚えています。

あれは、小一のクリスマス直前。

当時まだ純粋だった自分は、何の疑いもなくサンタさんに手紙を書いて、親にこう尋ねたわけです。

らくだ 「サンタさんの住所がわからないんだけど……」

らくだママ 「サンタさんは有名だから、名前を書いただけで届くわよ」

そっか。

サンタくらい有名になれば、名前を書いただけで届くのか。

そんなわけで封筒に「サンタさんへ」と書いて、家の前のポストに入れようとしたところ、ものすごい勢いで止められました。

「待ちなさい！ その手紙は、ママがサンタさんに渡しておくから！ いいわね！？」

……………。

なんか、おかしくね？

サンタさんは有名だから、名前だけで届くんじゃないの？

ちなみにどうして手紙を書いたかというと、毎年あまり欲しくない物が枕元に置いてあるので、欲しい物をちゃんと伝えようと思ったからです。

まあ今にして思えば、あまり欲しくない物であっても、毎年サンタさんが来てくれていたこと自体が、心底ありがたい話ですけどね。

そんなこんなの、サンタさんエピソードでした。

先月書いた作品を読み直していたら、変えたい部分がたくさん出てきた。

で、ちょっと手を入れてみたんだけど、その作業が思った以上に大変で。

やっぱり、ほら。

印刷はもう済んでるから、再印刷する枚数は、最小限にとどめたいわけです。

かといって文章を足すと、その後の行がズレちゃうから、「章が変わるまで全部のページを印刷し直し」ってことになる。

それは、もったいないな……。

それならば、改行を削って、行がズレないように文章を足して……。

そんな細工をしている最中に、自分でふと思ったわけです。

待て、らくだ！

お前はインクと自分の作品と、いったいどっちが大切なんだ！？

再印刷がもったいなくて、入れるべき改行を削るなんて、完全に本末転倒じゃないか！

そんなケチくさい奴は、完全にワナビ失格だ……！

↑こう思うこと、結構よくあります。

たとえば読み直しをしていて、漢字の開きのブレを見つけたのに、「誤字じゃないからいいや」と自分に言い聞かせて、そのまま投稿してしまったり。

そういう部分を見つけるために読み直しているのに、面倒くさがって見なかったことにするなんて、本末転倒以外の何物でもありませんよね。

自分用の日記ならともかく、他人に読んでもらう前提で小説を書いている以上、妥協することは許されない。

そのことを常に忘れずに、自分の文章に厳しく接したいと思います。

すごくいいネタを思い付いたり、すごくいい文章が書ける状態を、よく「降ってくる」と表現しますよね。

これ、皆様はどうでしょうか？

ちなみに自分の場合は、上から「降ってくる」じゃなくて、下の方へ「拾いにいく」感覚です。

というのも、文章って外から与えられるものじゃなく、結局は自分の中から出てくるものだと思うので。

ただ、「自分の中にある＝いつでも書ける」ってわけでもないんですよ。

本当に大切なものは心の一番深い部分にあって、その上にさして重要じゃないことが山積みになっていて、その一番上に自分がいる。

たとえば言うなら、ダイビングのような感じかも。

普通に潜るだけでは平凡な文章しか書けないけど、たまにものすごく深くまで潜ることができて、そういう時は自分でもびっくりするほどいい文章が書ける。

なので、「いい文章が書けた＝すごく深い場所まで拾いに行けた」って感覚です。

……………。

なんか今日も、気持ち悪いひとりごとになってますね。

まあ、いいや！

「らくだ図書館」って、そういうブログだし！

とにかく、拾いに行った時にちゃんと掴めるものがあるように、日頃からたくさんのことを吸収して、色々なものを心に沈めておきたいです。

ルルルの応募総数、半減してますね……。

過去の推移が気になったので、ちょっと調べてみたところ、

第 1 回	1046
第 2 回	565
第 3 回	355
第 4 回	431
第 5 回	345
第 6 回	279
第 7 回（今回）	136

これまでも減る傾向にありましたが、今回どうして減ったかは、どう考えたって明白だと思います。

規定枚数が「100～105 枚」って、いくら何でもタイトすぎるよ！

もちろん小説家を目指している以上、自分の作品を規定枚数にまとめる能力は絶対に必要で、その辺を睨んでの枚数設定なんだと思います。

それにしたってせめて 15 枚くらいの幅は必要で、たとえばこれが「100～115 枚」だったら、もう少し投稿数も増えたと思うんですけどね。

ちなみに自分がルルルに辛口なのは、過去 2 年間一次落ちだったことを、一人で勝手に逆恨みしているからです。

ああ、そうさ……！

心の狭いやつだと罵ってくれ……！

まあとにかく、一次通過数がどれくらいなのか、12 月の発表を見守ろうと思います。

先月書いた作品に愛着が湧きすぎて、次の作品に取り組めない件。

仕方ねえ、アレをやるか！

常木らくだの得意技、「投稿作なのに続編執筆」！

しかし、バンジョーニ2から、もう2年半もたつんですよね。

あの時通過リストを見られた方は、「何こいつバカじゃねーの？」と思ったかもしれませんが、まあ実際にバカなので反論はしません。

そしてコレ、バンジョーニ2以外にも、やったことがあるんですよね。

ただ、同じタイトルで「2」を書いて投稿すると、両方通過した時に悪目立ちすると学んだので、その時は1と2でタイトルを変えて出しました。

1. 本編

2. 本編で登場した脇役の過去の話

という感じで、それぞれ独立した作品として、何食わぬ顔で投稿したわけです。

ちなみに結果は、本編があっさり一次落ちして、過去の話だけ一次通過しました。

脇役すげえ……っていうか、主人公の立場ないじゃん！？

まあでも過去の話は、すでに行き着く未来が決まっている分（本編が先にあるので）、すごく書きやすかった記憶があります。

投稿作である以上、両方読まないで全体像がわからない連作は問題があると思いますが、それぞれが独立した作品として成り立っていれば、続編や過去編を書くのもアリですよね（……と自分は勝手に思っています）。

そんな感じで、次に書くものを考えてみようと思います。

本日、大阪市立図書館へ行ってきました。

自分は大阪府に合計 20 年以上住んでいますが、大阪市立図書館へ行くのは実はこれが初めてです。



こちらは一階入口の写真ですが、地下鉄の構内（「西長堀」駅 7 番出口）と直結しているので、実際は外へ出ずに入館できます。

改札を抜けたら、そこは図書館だった。

と言ったらさすがに言い過ぎですが、ここまで交通の便がいい図書館も、なかなか珍しいのではないのでしょうか。

そして館内ですが、噂通りすごい人です！

前に東大阪の府立図書館へ行った時、「市立図書館は人多すぎや！ あんな場所で本なんかよう読まんわ！」と知らないおじさんに話しかけられたことがあります、確かに納得です。

困ったなあ……。

座れる椅子が一つもないぞ……。

でも自分は、大阪市民じゃないから、借りて帰ることもできないし……。

そんなこんなで、図書館の人に相談したところ、貸出カードを作ってもらえました。

わーい、やったね！

相談したから作ってもらえたのか、「大阪市じゃなくても大阪府内なら OK」という決まりがあるのか、その辺はわかりませんが、とにかくわざわざ行った甲斐がありました。

そんなこんなの、大阪市立図書館。

他にも借りたい本や雑誌があるので、今後も定期的に利用しようと思います。

電撃の最終結果が発表されて、途中経過が消えちゃったなあ……。

と、思っていたら！

ページの下の方に、1次～3次のリンクが！

去年まではなかったのに、コレはありがたいですね。

というのも自分は通過リストを見るのが趣味で、自分が投稿していない賞であっても、欠かさずチェックする人間なので。

そして、二か所以上で見た名前はだいたい覚えていて、「〇〇さんってSDで二次通過してたな」とか思いながら、一人で気持ち悪くニヤニヤするのが大好きです。

それにしても、今回の電撃大賞は、受賞者の年齢層が比較的高めでしたね。
自分もたぶん、投稿者の平均より上の年齢なので、今回の結果に励まされました。

だって、もうね……。

MFの通過リストとか見てると、リアルに心が折れそうだもん……。

まあとにかく、電撃の結果を見て、「来年も頑張ろう！」という気持ちになりました。

ちなみに来年の目標は、今回電話番号を書き間違えてしまったので、「自宅の電話番号を正確に記入する」に設定しようと思います。

……………。

レベル低すぎ？

それはまあ冗談として、真面目な話は「三次通過」ですね。

たぶん月末には今回の選評も届くと思うので、その内容を見つつ、来年もまた頑張ろうと思います。

自費出版の勧誘を受けた方の体験談を読んだのですが、全国流通（500 部）させるのに必要な費用が 120 万円！

仮に売れなくても買い取り義務はないということなので、120 万円出せば確実に 500 部出版してもらえるそうですが、それにしたって高すぎますよね……。

その方は断ったそうですが、確かにうん、やめといた方がいいと思う。

なんか、ね。

本を出すというのは、文章を書く人間にとっては、一つの夢だと思います。

そしてその夢は、120 万円払えば、誰にでも叶えられる。

逆に言うと、120 万円払わなければ、普通は叶えられないことなわけです。

この事実、ちょっと衝撃的じゃないですか？

普通は大金を払わなきゃ叶わないことなのに、それなのに自腹を切ることなく本を出版できて、なおかつ読者にお金を払ってもらえる「作家」というのは、本当にものすごい職業だよなあ、と。

だって作家さんは、言葉を「商品」として売っているわけでもんね。

こうして長い間投稿を続けていると、「どうしてこんなに頑張ってるのに作家になれないんだ！」と思ってしまいますが、そもそも簡単になれる方がおかしいよな、と。

体験談を読みながら、そんなことを考えました。

今日は珍しく真面目な話になってしまいましたが、文章の集まりを「商品」として提供できるくらい、自分も言葉に対する感性を磨きたいと思います。

小説投稿をしている以上、「もし受賞したら」という妄想は、誰だってすると思います。

たとえば、

- ・ 続編を考える
- ・ あとがきを考える
- ・ 絵師さんについて考える
- ・ アニメ化された時の声優さんを考える

……やりますよね？

まあでも、その辺の妄想は、する方が自然だと思います。
そういうことを考えると、書く意欲が湧きますもんね。

しかし！

とらたぬ具合で、常木らくだに勝てる者はいまい！

何しろ自分、ペンネームの名刺作りましたからね（爆）

いやー。

初投稿した時、「この作品で絶対に受賞するから、授賞式で配るための、名刺を用意しておかないと！」と思って、ものすごく慌てて作ったんですよ。

その名刺（200 枚！）はというと、配る機会などあるはずもなく、机の奥にしまってあります。

痛々しいな、自分。

まあでも、そういう痛々しい自分は、結構好きなんですけど（←ド M）。

とにかく。

このまま受賞できなければ「黒歴史」で終わってしまいますが、もし受賞できて使う機会があれば、「ものすごく用意がよかった人」になれるので、そのためにも頑張ろうと思います。

今日は、エロ談義でもしましょうか。

べっ、別に、エロが好きなのじゃないわよ！？
ただ、執筆に役立つ内容だから、「仕方なく」よっ！

と、無意味にツンデレ少女の口調になりつつ、さっそく本題。

以前、「貞潔サディスト」という話を投稿した時のこと。
あざとくエロネタを仕込んだんですが、評価シートでこんなことを言われました。

「エロシーンを書く場合は、単に事実を描写してもダメ。
マンガならそれでもいいけど、小説の場合はイラストがないから、視点をハッキリさせて感情描写を入れなきゃ、読み手を惹き込むことはできないよ」（コメント意識）

以前も一度書いたかもしれませんが、コレ、すごく重要なことを言ってますよね。

たとえば、どんな登場人物が出てくるかわからない物語の冒頭で、濃厚なラブシーン（あるいはエロシーン）があったら、読み手にとっては「何だよ、この話」になってしまう。

絵があるならまだしも、小説の場合は絵がないので、読者に想像力を発揮してもらえないわけです。

逆に、キャラクター描写がきちんとできていて、「ヒロインかわいいなあ、こんな子と仲良くなりたい！」と思わせることができていれば、ただ手をつなぐだけのシーンでも、読み手をドキドキさせることができる。

マンガと違って、小説にはそういう「引っかかり」が必要なんだよ。

……と言われて、目からウロコでした。
自分は何十枚も選評持ってますが、たぶんコレが、一番目からウロコだった指摘です。

今回の教訓

「エロシーンは、キャラ描写を丁寧におこなった後に、満を持して書くべし！」

前回「筆名の名刺を作った」という黒歴史を披露しましたが、今日はその続きを。

その名刺は、インターネットで注文したんですよ。
店頭で注文するのと違って、自分でゆっくりデザインを入稿できるし。

そんなこんなので、200 枚ほど頼んだところ、すごく綺麗に仕上がって大満足！
おまけに、キャンペーン中だったみたいで、何やらオマケが付いてきたよ！

ドキドキしながら開けてみると、そのオマケは「住所シール」。
住所と名前が印刷してあって、封筒の裏なんかに貼れる、お手軽便利なシールです。

しかし、その住所シールには致命的な問題が。
それは、名前が筆名「常木らくだ」であること。

いや、まあ……。
確かに名刺は、ペンネームで注文したけど……。
この名前だと、封筒の裏に貼れないじゃん……？

そんなこんなので、行き場のなくなった「常木らくだシール（100 枚）」。

しかし捨てるのは勿体ないので、最近は開き直って、（一応本名も書いて）投稿時に使ってます。

……………。
我ながら、自分の迷走っぷりは、ちょっとひどすぎるな……。

ちなみにそのシールは、まだ 80 枚くらいあるので、使い切るまで投稿を続けようと思ってます。

以上、最強とらたぬ伝説（Vol.2）でした。

「ラノベ作家になろう大賞」のホームページを見たら、一か月前に見た時と大きく要項が変わっていました。

このブログ（9/21の記事）にも書いたので、念のために変更点を挙げておきます。

【規定枚数】80枚～200枚（40字×34行） ⇒ そのまま

【締切り】2013年1月8日 ⇒ 2013年3月15日

【発表】2013年4月 ⇒ 2013年7月

【評価シート】希望者全員（要封筒）

＊「評価シート希望者は返送用の封筒を同封してください、応募フォームからの投稿だと評価シートは送れません」という内容が追記されてます。

↑この部分、実は気になってました。

「応募フォームからの投稿だと、選評はメールで来るのかな？」と勝手に解釈していたんですが、どうやらそうじゃなかったようです。

それから、「もっとも楽にラノベ作家になれる新人賞！ 人気の賞（笑）になってしまう前に！」という内容のキャッチコピーがあったと思うんですが、その文章が消されてます。

以上です。

投稿される予定の方は、らくだブログではなく公式サイトを見るとと思いますが、念のために訂正しておきます。

そして、そして。

自分は投稿してませんが、富士見ファンタジアの一次発表がありましたね！

ドキドキしながらHPを見に行ったら、応募総数と通過数だけしか載ってがなく、リストの発表は24日という焦らしプレイでしたが、来週を楽しみに待とうと思います。

今日は以上です。

それにしても、一迅社の発表はいつなんだろう……。

とあるスポーツ物の映画を見たんですが。

話が一番盛り上がるクライマックスで、主人公が現行ルールでは禁止されている技を使って、そして優勝するという「え？」な展開。

「まさかこれで終わりじゃないよね？」と思って見ていたら、そのままエンドロールが流れて、呆然としてしまいました。

ちょっとー！

得点の計算方法も全然違うし、どう考えてもあり得ないよー！

ここで、自分がもし純粋な観客であれば、「とんでもない映画だった」で終わるはず。
ただ、自分も創作をする人間なので、ものすごくわかるんですよね。

製作者はたぶん（というか絶対に）、その技が禁止技だってことを知らないわけじゃなく、知った上であくまでもフィクションとして脚本を書いてる。

ルールの改変も、そうした方がストーリーがわかりやすくなるという理由で、わざと変えてる。

もちろん、そういうアプローチもアリだと思います。

ただ、スポーツを題材にした作品を創作する以上、その競技の内容を正確に書くことは、最低限の礼儀だと思うんですよね。

仮にストーリー進行に支障が出るとしても、そこでルールを勝手に改変しちゃったら、何のためにそのスポーツを題材にするの？ って話だし。

まあでも、ルールを簡略化してわかりやすい話を書くことで、そのスポーツに興味を持つ人が今以上に増えるなら、それはそれで嬉しいことでもあります。

結局は、製作者自身が、その物語を「何のために書くのか」。

その答えは人それぞれですが、自分だったら、現実のルールを優先したいと思います。

よく周囲の人達から「そう簡単には作家になんてなれないよ？」と言われてたり、評価シートで「作家になるには相当な努力が必要です」と言われたりするけれど、小説投稿がどれだけ大変かを実際に一番よく知っているのは、ズバリ私達「投稿者」だと思うんですよ。

いや、本当に。

冒頭から長文を書きましたが、本当に。

一作完成させるのに相当な時間と労力を費やして、それでも「このラノ大賞」で5本一次落ちなんかした日には、本当に投稿なんてやめてやと思いますよ。

小説投稿は、大変です。

大変だとわかっているけど、それでも書きたいから、こうして続けているんです。

その点については、私達小説投稿者は、プライドを持っていいんじゃないかと。

通過リストに自分の名前を見つけた瞬間、どんな気持ちになるのか。

逆に入魂の自信作が落選してしまった時、どんな気持ちになるのか。

それはたぶん、実際に経験しないとわからない。

そうですね？

小説投稿のつらさも、小説投稿の楽しさも、一番知っているのは私達。

というわけで、次周囲の人に「作家になるのは大変だよ？」と言われてたら、「んなもん知っとるわー！こっちはガガガで4本一次落ちしたんじゃい！」と言いつつ返そうと思います。

とまあ、さり気なく複数落選の経歴を披露しましたが。

とにかく、小説投稿のつらさを一番知っているのは自分自身で、それでも好きだから投稿を続けているんだという、その点には自信とプライドを持つべきだと思います。

というわけで、寝かせてあった原稿を、スーパーダッシュに投稿しました。

昔は準備できたらすぐに出していたんですが、「あまり早く送ると逆に印象が悪いかも」と考え、最近は締切り直前に送るようにしています。

だって、ほら。

あんまり早く送ると、「推敲する時間があるのにもう出してる」⇒「その作品にそこまで思い入れがない」って思われそうじゃないですか。

だから紙原稿の場合はもちろん、データメディアを同梱する場合は、作成日時が締切りに近い日付けになるように、いちいちデータを編集するという、徹底した「とらたぬ」行為を実践しています。

フロッピーディスク、日付け改ざん事件……！

いや、すみません。

ちょっと言ってみただけです。

まあとにかく、SD はクリスマスに一次発表が来たりするスリリングな賞なので、聖夜に二重や三重に落ち込まないためにも、一次通過したいなと思います。

あとは、来月の GA 後期。

GA 後期は毎年必ず参加していますが、複数投稿するのは今回が初めてなので、SD 同様そちらも一次通過して欲しいな、と思います。

それにしても、そろそろ新作を書かないと……。

10 月は結局いたばし月間になったので、11 月は何か新しい作品を書きたいな、と。
ネタの候補はいくつかあるので、どれを書くか、ゆっくり考えてみようと思います。

よく思うんですが、長編小説を書くのは、鏡の前で二時間しゃべり続けるような行為だな、と。

これがもし観客のいる舞台だったら、相手の反応を確かめられますよね。

退屈そうにしている人がいたら、そのエピソードを切り上げて、話を先に進めることだってできる。

それでもダメだったら話す順序を変えたり、何なら、内容そのものを変更することだってできます。

仮にギャグが滑った場合、その系統のネタは使わない。

逆に想像以上にウケた場合は、似た内容を追加することもできる。

相手の反応を確かめながら、臨機応変な対応ができますよね。

でも小説の場合、相手の反応はわからないので、そこが難しい部分だと思うわけです。

本人は頑張ってしゃべっていても、相手にとっては退屈かもしれない。

自分は面白いギャグだと思っていても、相手は冷めた目で見ているかもしれない。

そんな感じで二時間しゃべり続け、最後にドヤ顔で感想を聞いたら、相手のコメントは「……………」。

そういう場合って、だいたい評価シートでわかりますよね（苦笑）

ああ、この作品、好きになってもらえなかったんだなあ、って。

そういう温度差をなくすためにも、読み手がどんな顔でその作品を読んでいるのか、常に想像しながら書かなきゃな、と。

自分は趣味に突っ走ってしまう人間なので、その点を特に気を付けたいと思います。

9月に書いた作品を、1か月かけて読み返したんですが、修正したい部分が多すぎるよ本当にもう。

全部で100枚の作品なんですが、結局60枚くらい再印刷しましたね。

話自体は完全にそのままなのに、言葉選びや誤字の修正だけでこれだけ再印刷が出るってことは、普段書き上げた直後に投稿している作品は、どれだけツメが甘いのか。

なんか、もうね。

一か月作品を寝かせることの重要さを、今さらながらものすごく実感しました。

投稿計画にそこまで余裕がある場合は珍しいので、毎回必ずできることはありませんが、「一か月放置」はこれからも可能な限りしようと思います。

あと、文章の修正以外で気になったのは、物語終盤に出てくる新キャラですね。

別にそのキャラがいなくても話は成り立つのに、最後の章でひょっこり登場して、当然のように仲間にとけ込んでいる、っていう。

これ、続編を見込んでキャラ数を増やしてるみたいで、印象悪いかなあ……。

まあ、実際のところ続編を見込んで、キャラ数を増やしてるわけだけど……。

もし2を書く機会があれば、主要キャラとして使いたい。

そんな「とらたぬ」精神を発揮して、そのキャラは消さずに残そうと思います。

なんかもう、これを機にペンネームを「常木たぬき」にしようかな。

むしろ、作家らしく言葉遊びをするなら、「常木きつね」でもいいし。

そんな可能性も視野に入れつつ（?）、来月も引き続き頑張ろうと思います。

今パッと気付いたんですが、このブログ、今日で更新 300 回目みたいです。

わーお！

自分の暇人っぷりにあきれ……、いやいや、「継続は力なり」ですね！

ブログに費やしている時間をそのまま執筆にあてたら、たぶん今ごろ長編 3 本くらい仕上がっていると思いますが、ブログはブログで自分にとって必要な物なので、これからも続けようと思います。

どっちにしろ、自分用の日記は毎日書いているので、ブログを始めても「ちょっと書く量が増えたな」という感じで、書くこと自体を苦痛に思ったことはないですし。

ちなみに、書く内容は完全に分けてます。

日記には、基本的に、愚痴や文句や弱音を書いて。

逆にブログには、楽しい話や、執筆意欲が上がる話や、笑える話を書いて。

まあ、「おまえのギャグ、全部滑ってるぜ！ 一度も笑ったことねーよ！」と言われたら、謝るしかないですけれど。

でも一つだけ本気で思うのは、我々投稿者は「言葉で他人を楽しませようとしている人間」なのだから、たとえネット上という匿名の世界であっても、言葉で他人を不愉快にさせることはしたくないな、と。

そう思うので、愚痴は日記に書いて、ブログには楽しい話を書くようにしています。

(まあそんな偉そうなことを言いつつ、ここに愚痴を書いてしまう日も多いんですが)

そんな感じの、らくだ図書館。

あと二か月ちょいで一年連続更新なので、とりあえずは、そこを目標に頑張ってみようと思います。

次に書く作品の主人公は、「クールな変人」に決定だ！

というのも、ハイテンションな変人を書いた時よりも、クールな変人を書いた時の方が、キャラクターの評価が高かったのだ。

あと、ひねくれた変人を書いた時も、それなりに高評価をもらえましたね。

逆に「これはない」と言われてしまったのは、変態主人公を書いた時。

きっと、あれですね。

自分自身が変態なので、変態主人公を書くと、本当に変態になってしまう。
今考えると、そこが敗因だったと思います。

あと、それと共通する部分があるかもしれませんが、自分は一人称より三人称で書いた時の方が作品が通過しやすいです。

一人称だと、評価シートいわく、「主人公に感情移入するのが難しい」。

あ、あれ……？

本来は、一人称の方が感情移入しやすいんじゃない……？

これはたぶん、あれですね。

一人称で書くと、自分自身の変態キャラが出て、話があらぬ方向へ突っ走ってしまう。

逆に三人称で書くと、「地の文が読みやすい」と評価されるので、一時期は半々の比率で書いていましたが、今は特別な理由がない限り三人称で書くことに決めています。

つまりは、こういうことだな。

自分にとって一番持ち味を出せるのは、「三人称で冷静にクールな変人を書く」。

これが勝利フラグだと信じて、これから一か月頑張ろうと思います。

常木、ザビエル萌えやめるってよ。

……いや、やめませんけどね。

ふと思いついた文章を書いてみました。

それはそうと、新作の冒頭が書けなくて、早くもイヤになっています。

あーもう、イヤだ！

100 枚も文章を書くなんて、果てしなく面倒くさい！

思えば小説投稿をしていると、イヤになる回数って多いですよ。

ページが進まなくて、執筆がイヤになる。

自信作が落選してしまって、執筆がイヤになる。

評価シートの酸っぱいコメントを読んで、執筆がイヤになる。

こんなに何度もイヤな思いをしつつ、どうして小説投稿をやめられないのか？

その答えは、「常木らくだが一次落ちにエクスタシーを感じるド M だから」ではなく、「文章を書くことで救われた回数の方が、イヤになった回数よりもはるかに多いから」です。

まあ「救われた」って言っても、「努力が認められた」って意味ではなく、自分の精神が救われたって感じなんですけど。

文章を書くことは、自分の心のよりどころ、とでも言うか。

他によれる取り柄がないので、仕方なくよってる点が、やや悲しい部分ではありますが。

あとはやっぱり、ささいなことでイヤになるのは、それだけ好きな証拠でもある。

大事なことからこそ、心がひどく敏感になって、傷付きやすくなるんですよ。

そんな純情ワナビハートを胸に抱きつつ、冒頭部分をもうちょっと頑張ってみます。

突然ですが、これまでに経験した中で、一番ド M な体験を披露します。

シンガポールからインドネシアのビンタン島へ向かうフェリーの中で、ひどく船酔いしてしまい、トイレに駆け込んだわけですよ。

吐きそうでトイレに顔を伏せていたら、船が大きく揺れて水がはねて、便器の水が思いっきり顔にバシャリ……！

いや。

普通だったら、よけますよ。

普通だったらよけるけど、今にも吐きそうな状態だから、トイレから顔を離すことができないわけです。

そんなこんなで、到着までの約 1 時間、便器の水を顔面に浴び続けました。

結局吐かなかったし、トイレの水が原因でお腹を壊すこともなかったけれど、あれはかなりド M 度の高い経験でしたね。

あと、同じくシンガポールでの経験で、もう一つ。

「ブルーハワイ・ミルクティー」という、青信号の色みたいな紅茶（？）を飲んだら、翌日青い下痢が出たことがあります。

恐るべし、ブルーハワイ……！

その後病院で点滴を打ちましたが（マジ話）、あれにはかなりのショックを受けました。

これからシンガポールへ行かれる皆様！

ブルーハワイ・ミルクティーは、絶対に飲んではいけません！

そんなこんなの、海外ド M 体験でした。

他にもたくさんあると思うので、思い出したらまた書こうと思います。

10 年前のアナログテレビが、ついに壊れてしまいました。

具体的にどう壊れたかというと、「音量アップボタンを押すと電源が切れる」という、実にいやらしい壊れ方。

ほら。

音量って、だいたい興味のあるシーンで上げるじゃないですか。

その瞬間、こちらをあざ笑うかのように、テレビ画面が真っ暗になるわけですよ。

何なんだー！

自分は確かにド M だけど、こういう仕打ちは、まったく嬉しくないぞー！

そういうわけで、ついにデジタルテレビを注文しました。

明日届いたら、まずは画質の確認がてら、「カンフー・パンダ」を見ようと思います。

それにしても、ついに 10 月も終わりですね。

今月は結局新作を書けなかったので、「来月こそは絶対に！」と思うんですが、先日書き始めた話がいまいち波に乗れない状態で……。

まあでも、話が形になっていない状態で焦って文章を書いても、そのシーンがうまく機能せず後から消すことになってしまうので、ちゃんと最初に煮詰めてから書いた方が結局は早いのかな、と。

そう思うので、あまり焦らず、ゆっくりと書いてみます。

とりあえず、今回の作品は、電撃投稿を目標に。

次回は 20 回で賞金も増えるし、得意のとらため妄想をしつつ、地道に頑張ろうと思います。

小説を作るのは、誰なんだろう？

普通に考えれば、「作者」ですよ。

小説って、基本的に、一人だけで書くものですし。

でも本当は、小説を作っているのは、「作者」であり「読者」でもある。

文章を提供するのは作者の作業だけど、それを読んでその小説の世界を構築するのは、読者側の作業だと思うわけです。

たとえば自分はハングル文字を読めないで、ハングルで書かれた小説が手元にあっても、その世界を構築することはできません。

こう、なんて言うのかな。

小説の場合は、相手に文章を読んでもらって理解⇒想像してもらうことで、初めてその作品が成立するんじゃないかと。

だからこそ、小説を作るのは、「作者」と「読者」の共同作業。

そう考えたら自然と「わかりやすい文章を書こう」「楽しんでもらえる配慮をしなきゃ」「単なる自己満足になっちゃいけない」って思いますよね。

まあ SD にザビエル萌え作品を送りつけて、「読者のニーズを無視しています」と指摘された自分は、こんな偉そうなことを言える立場じゃないんですけど。

でも、本当に。

今書いているこの文章の先には、読んでくれる相手が存在するんだ。

ずっと一人で小説を書いていると、ついついそのことを忘れがちになってしまうので、読み手の存在を常に忘れないようにしたいです。

今日で 10 月も終わりなのに、ジャンプ小説の二次発表マダー？

へへっ……！

早く結果が知りたくて、オラすっげーワクワクすっぞ……！

まあ最終発表が 11 月末だから、それまでには更新されるはず。

騒いだって結果は変わらないので、あまり焦らずに待とうと思います。

それにしても、タイトルが 2 行に分かれるほど長いと、自分の作品がすぐに見つけて便利（？）ですね。

しかし、仮にあの作品が刊行されたら（仮にね！）、流通関係者には相当本気で嫌われると思いますが。

33 文字だと？ ふざけるな！

このタイトルどう考えても、商品名の欄に入らねーよ！

……みたいな、ね。

自分も販売をやっていたので、そういう経験は山ほどあります。

それはそうと、明日からついに 11 月！

今書いている話が全然波に乗れないので、冒頭部分を消してプロットを組み直してみたら、何となく書けそうな気がしてきました。

前倒しするつもりだったのに、結局 11 月から執筆開始かぁ……。

まあでも、早く仕上がれば GA に投稿できるので、ひとまず 11 月中の完成を目標に頑張ってみます。